

声をあげる力が命を守る

近年、家庭や学校で悩みを抱えながら、誰にも打ち明けられず苦しむ子どもが増えています。心の内に抱えた不安や恐れは、見えにくく、気づかれにくいものです。だからこそ今、「SOSの出し方」を学ぶ取り組みが各地で広がっています。

この学びの大切な柱は、「困ったときに声をあげる力」を育てること、そして「その声を受け止められる大人」を増やすことです。

学校では、助けを求める方法を話し合い、相談できる場所や人を知る機会を設けています。

同時に、「自分の命や心を大切に思う気持ち」や、「安心して話せる関係」を育むことも欠かせません。

小さな変化に気づくまなざし、そっと寄り添う姿勢が、子どもの未来を守ります。地域全体で支え合っている、一人でも多くの笑顔を守っていききたいものです。

今日の言葉 小さな声に気づく勇気

子どもが安心して助けを求められる環境づくりは、今の社会にとって欠かせない課題です。

身近にいる大人に「困っている」と伝えられることは、心の負担を軽く、深刻な事態を防ぐ大きな力になります。そのためには、子どもが話しやすい雰囲気の日頃から整えておくことが大切です。

また、大人側も声をかけられたときに否定せず、最後まで耳を傾け、必要な手助けにつなげる姿勢が求められます。日常のあいさつや何気ない会話の積み重ねが、安心して頼れる関係を育てます。

自分の心や体を大切に思う気持ちは、周囲の温かな関わりの中で育まれます。小さな気づきと行動が、子どもの命と未来を守る力になるのです。

【今回の学び】⇒安心して会話のできる雰囲気づくりが大切！

